

学校番号	42	学校名	茨城県立神栖高等学校
------	----	-----	------------

令和7年度道徳教育全体計画

諸法規		校訓		生徒の実態	
・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・茨城県教育委員会施策		至誠 勤勉 協和		基本的に純朴である。基礎的な学力が低く、学習への粘り強さに欠けたり、日常生活でのマナーや言葉遣い、規範意識が希薄な生徒もいるが、大半は落ち着いて行動できる。 家庭環境や社会環境に影響されている。指示や命令・規則などの約束事が素直に聞かされる生徒が増えている。	
保護者の願い		学校の教育目標		地域の実態	
3年間安全と健康を保証され、学習に専念し卒業できる。地元企業への就職、または、就職に役立つ上級学校に進学する。		道徳教育重点目標		学校教育への関心は低く、生徒の良い点を育む環境が少ない。また、生徒を守り育てる方策がとられておらず、地域の教育力は低下している。	
各教科・科目		特別活動		生徒指導	
国語	適切に表現したり理解する能力を育成し、思考力を伸ばし心情を豊かにする。	ホームルーム活動		家庭環境が複雑であったり、家庭機能が完全でない状況が漸増してきている。学校の情報が行き届かない事や指導徹底が細やかに図れない事がある。また、人間関係を作ることが苦手で、そのことが対人関係のトラブルを生むことが多い。生徒個々の「豊かな心」育成を図り、また、教育効果が効率的に発揮されるために、家庭連絡と家庭訪問の実施が欠かせない。	
地歴	我が国及び世界の形成や歴史・文化の特色について理解を深め、平和的な国家と社会の一員としての資質を養う。	2学年では企業見学を柱とした「未来設計」の進路実現への第一段階になる職業観の育成と同時に自己探求や生き方と在り方を絡めた学習を行なう。 3学年は1学年の「道徳」と「未来設計」の第一段階から職業観を深めて自己実現に発展する。進路別研究授業なども実施して希望実現を目指す。		家庭との連携	
数学	数学の概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力と態度を育てる。			家庭環境が複雑であったり、家庭機能が完全でない状況が漸増してきている。学校の情報が行き届かない事や指導徹底が細やかに図れない事がある。生徒個々の「豊かな心」育成を図り、また、教育効果が効率的に発揮されるために、家庭連絡と家庭訪問の実施が欠かせない。	
理科	自然に対する関心や探究心を高め、日常生活の事象を科学的に考察し探究する態度を養う。			地域社会との連携	
保健	健康増進や安全生活の理解を深め、生涯にわたり運動に親しみ豊かな生活を営む態度を育てる。			地域との関係は大きな教育の機会になっている。特に2学年次の「企業見学」は何年もの実績があり充実してきている。諸関係機関との連携を図り、相互の情報交換は今後とも強化し充実した体制を構築する。学校周辺地域・PTA・後援会や同窓会など協力を呼びかけ支援体制を作る。	
芸術	芸術活動を通して芸術を愛好し、感性を高め、豊かな情操を養い道徳性の基礎を培う。	公民科			
外国語	外国語を通じて言語・文化に対する理解を深め、異なる文化と共生する態度を育てる。	公共			
家庭	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族や家庭を実践的に創造する態度を養う。	「社会的な見方・考え方」を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力を育成することを目指す。 広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。			
情報	情報の活用のための知識と技能の習得を通じ、進展する情報化社会に対応する能力を育てる。				
総合的な探究の時間	自らが主体的に考え、判断して行動する活動に重点を置き、生徒相互の理解と協調性を喚起し、発想を豊かにする。 豊かな体験活動を実施し自分の「道徳性」に気づかせ、実践できる資質と能力を養う。 自分自身の行動や行為を見つめて、共に歩む意味を考える。				
商業	商業の各分野に関する知識と技術を習得させ、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。				